



都市づくり方針

8

## 健康を支える快適な都市づくりの展開

### 現状

平成22（2010）年時点で、豊島区の平均寿命は男性79.6歳、女性86.3歳となっています。しかし、高齢社会の進展にあわせて、がん、心臓病、脳卒中などの疾病が死因の大きな割合を占めるとともに、高血圧や糖尿病などの疾病によって治療を受けている人の数も増えています。また、要介護状態になる人の増加も著しい状況にあります。

こうした疾病は、身体活動・運動や栄養・食生活をはじめとする日常生活のあり方に大きく関係しています。このため、生活習慣病の早期発見と早期治療などの二次予防<sup>75</sup>を推進するとともに、生活習慣の改善及び社会環境の整備により一次予防<sup>76</sup>に重点を置いた取り組みが不可欠となっています。

区では、平成30（2018）年3月に「豊島区地域保健福祉計画」を改定し、健康寿命を伸ばすとともに、生活の質を改善することをめざして、区民の健康づくりに取り組んでいます。平成27（2015）年3月に、「豊島区子どもプラン」を改定し、安心して子どもを産み育て、子どもたちの健やかな成長を支える施策を展開しています。

また、平成24（2012）年5月には、セーフコミュニティの国際認証を取得し、安全・安心と健康の質を高める都市づくりを区政推進の基本に位置づけています。

### 主な課題

- 本格的な人口減少、少子・超高齢社会の到来を見据えて、人々の健康を支える都市づくりの視点が必要です。
- 鉄道駅周辺では、日常生活を支える機能が集積し、安全・安心で快適に歩くことができる拠点の形成が必要です。
- 気軽にスポーツを楽しみ、身体を動かすことができる都市空間の創出が必要です。
- 子どもたちの成長と子育てする人を支える都市機能の充実が必要です。
- ヒートアイランド現象の緩和に取り組み、快適に過ごせる都市環境の形成が必要です。

75 二次予防：疾病の重症化を未然に防ぐための行為

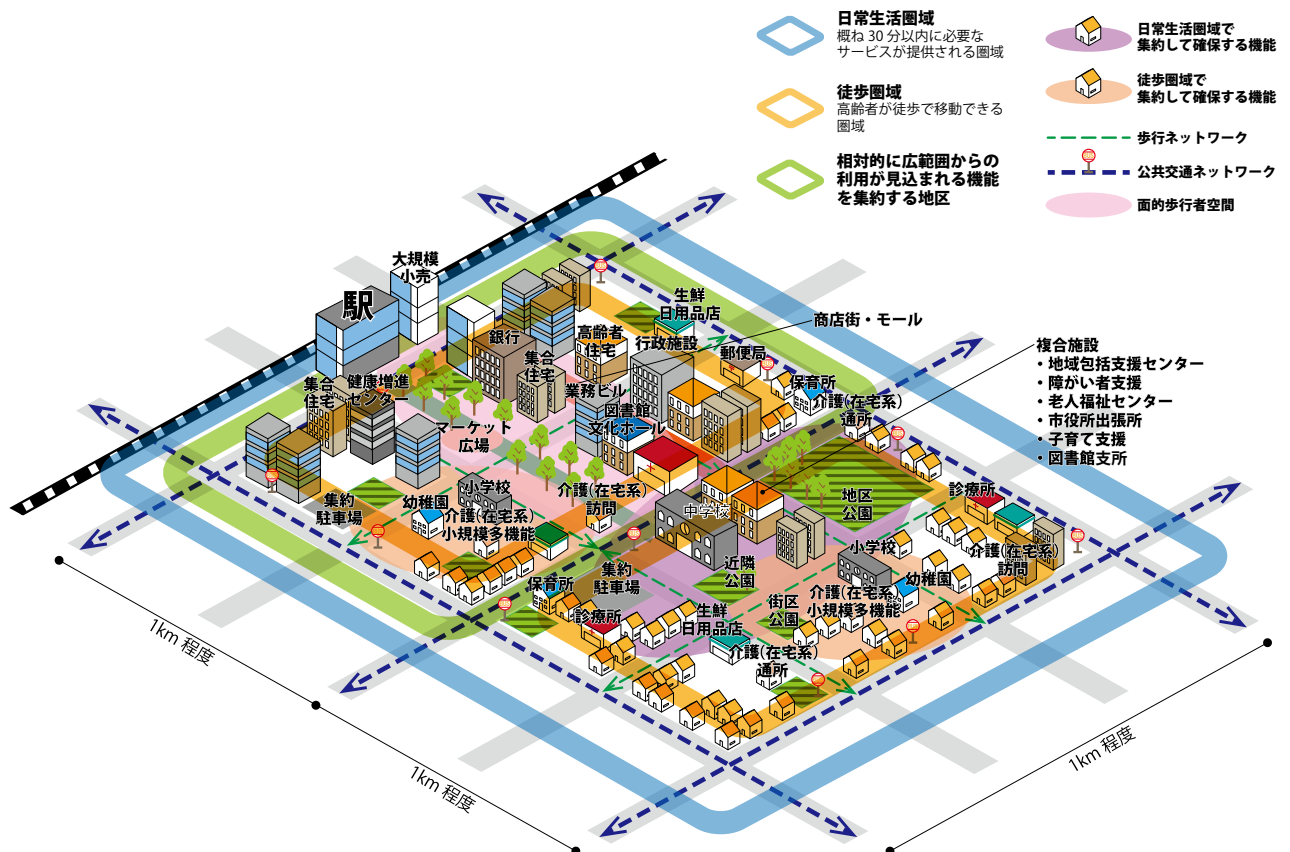
76 一次予防：疾病の発生を未然に防ぐための行為

都市づくり方針

1 生活の質を高める都市づくりの推進

- 「豊島区地域保健福祉計画」による健康づくりや健康危機管理、地域医療、福祉サービスの基盤整備などの取り組みと都市づくりが連携し、健康で安心して暮らせる都市をめざします。
- 鉄道駅周辺を中心とした拠点では、それぞれの役割に応じて、医療、福祉、子育て、運動、スポーツなど健康を支える都市機能の集積を図ります。
- 交流拠点及び生活拠点では、高齢者や障害者が住み慣れた地域で、安心して自立した生活を継続できる住環境の形成に向け、地域包括ケアシステム<sup>65</sup>の構築にも考慮しながら、身近な地域での買い物や医療・介護など日常生活に必要な機能を実践します。(P 69)
- 鉄道駅周辺を中心とした拠点と都市骨格軸では、歩行者優先の交通環境を創出し、健康づくりを支える「ウェルネスロード（健康を育む道）」の整備を検討します。
- 幹線道路では、産業、文化、福祉、健康、交通などの関係する分野が連携して、健康を意識して歩ける案内表示や緑陰の中で休憩できる場所などを沿道空間の活用を含めて設置します。

図表112 地域包括ケアシステムとの連携にも考慮したまちづくりのイメージ



資料：国土交通省資料より作成

## 2 ユニバーサルデザインによる都市づくりの推進

- 鉄道駅や多くの人が利用する施設などでは、エレベーターやエスカレーター、スロープ、視覚障害者の誘導ブロックの設置、段差の解消等のバリアフリー化を促進します。
- 鉄道駅や医療機関、福祉施設などの周辺では、円滑な人の移動や施設利用を実現するために、バリアフリー化に取り組みます。(P69)
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催とその先を見据えて、国外から訪れる人が安全・安心してまちを楽しめるように、分かりやすいサイン表示や多言語による情報発信などに取り組みます。
- 誰もが安心して外出できるよう、ハード面でのバリアフリー化とともに、一人ひとりが不便を感じている人を気遣い支える「心のバリアフリー<sup>77</sup>」を進めます。

## 3 気軽に身体を動かせる都市空間の整備

- 公園の新設や改修とあわせて、高齢者や障害者などが気軽に身体を動かせる健康遊具や四季の彩りを感じながら歩くことを楽しめる園路の設置を検討します。
- スポーツ施設の計画的な整備・改修に取り組むとともに、その周辺では道路の安全性の向上や案内サインの設置などを検討し、健康を育む拠点づくりを進めます。
- 楽しみながら歩くための仕掛けとして、産業、文化、観光、福祉、保健、交通などの関係分野が連携し、散策ルートの設定やフットパスマップ<sup>78</sup>を作成します。

図表113 公園に設置された健康遊具



図表114 フットパスマップのイメージ



画像提供：町田市

77 心のバリアフリー：段差等の物理的バリアの除去だけではなく、障害者の社会参加に向けた社会的・制度的・心理的なバリアの除去に積極的に協力するという意味

78 フットパスマップ：フットパスのルートや所要時間等を記した地図。フットパスとは、地域のありのままの風景を楽しみながら歩くこと (Foot) ができる小径 (こみち：Path)

## 4 子どもたちの成長と子育てを支える都市空間の創出

- 鉄道駅周辺を中心とした拠点では、それぞれの役割に応じた子育て支援機能などを誘導し、育児と仕事の両立を支える環境づくりに取り組みます。(P 69)
- 通学路の安全性を高めるために、防護柵やガードパイプなどによる歩行者空間の確保、横断施設や狭さくなどの設置を検討します。(P 64)
- 親子や子どもたちをはじめ地域の人たちが安全で楽しく遊べる公園に向けて、事故や防犯などに対する安全性を高めるとともに、子どもの自主性や主体性を育む遊びと地域の人たちの交流の場となるよう、公園の再整備や利用ルールの見直しを検討します。(P 69、P 81)
- 生態系に配慮した公園の整備や学校等でのビオトープづくりに取り組み、子どもたちが身近に生物と触れ合える空間を創出します。
- 商業施設などでの授乳やおむつ替えスペース等の整備促進、歩道の段差解消などに取り組み、妊娠している人やベビーカーにも配慮した都市づくりを推進します。
- ハード整備とあわせて、子どもたちの良質な生育環境を保障するため、保育や幼児教育の場及び地域子ども・子育て支援事業の充実、芸術文化イベントの開催などに取り組みます。
- セーフコミュニティ活動を通じて、地域の中で子どもたちの健やかな成長と安全を見守るまちづくりを進めます。

図表115  
ベビー休憩室(西武池袋本店)



図表116  
子どもたちが芸術に触れられるイベント(まちかど回遊美術館)



## 5 快適に過ごせる都市環境の形成

- みどりの拠点では、都市を冷やすクールスポット<sup>69</sup>や生物が生息する拠点を形成するとともに、災害時の避難場所<sup>36</sup>としての安全性を高めます。(P 78)
- 都市計画道路の街路樹や沿道民有地の緑化などによる連続した緑陰空間の創出、道路の遮熱性舗装などにより、熱中症の要因の一つであるヒートアイランド現象の緩和に取り組みます。
- 大気や水質、土壌の汚染や騒音など、快適な都市環境に影響を及ぼす公害の発生状況の調査と改善に東京都と連携して努めます。

図表117 都市づくり方針図(健康)



※医療機関(病院)は、「豊島区在宅医療地域資源マップ(豊島区内の病院)」に掲載されている施設

